

まちづくり部会

1. 趣旨

庄内南部地区の合併を契機に、中山間・漁村地域の人口減少や高齢化の進行を踏まえ地域振興を図る絶好の機会として捉え、それぞれの地域資源、地域特性を生かし、新しい時代に相応しい振興方策を探るため、学識者を交え地域づくりの調査研究を行うものです。

2. 活動経過と今後の予定

平成 14 年度

・ 会議経過

H14.11.20	第 1 回まちづくり部会
H14.11.29	第 2 回まちづくり部会
H14.12.21	地域資源現地調査の実施
H15.1.16～17	庄内地域づくり第 2 回研究会
H15.3.31	第 3 回まちづくり部会

・ 活動内容

基礎データの収集・分析
先導的プロジェクトテーマに基づく調査事業
学識経験者との合同先進事例調査
庄内地域づくり研究会と合同での資料収集

平成 15 年度

・ 会議経過

H15.5.29	後藤春彦氏（早稲田大学教授）の研修会開催
H15.7.4	小田切徳美氏（東京大学大学院教授）の研修会開催
H15.8.29	第 4 回まちづくり部会
H15.10	第 5 回まちづくり部会
H15.11 ～	3～4 回の部会の開催

・ 活動内容

庄内地域づくり研究会と合同の資料収集
学識経験者の研修と研究活動
各市町村の先導的地域振興計画の研究検討
中山間・漁村のまちづくり方策の提案

平成 16 年度

・ 活動内容

1) 中山間・漁村地域のまちづくり具体的プログラム（施策）の提案

2) モデル事業の提案

～ 地域資源、地域特性のデータベースの活用

3 . 部会の取りまとめ資料

(1) 業態系類によるとりまとめ

(2) 地域資源のデータベース化

(3) 中山間地域の人口及び世帯数の推移～ 参考資料

(4) 振興方策の着眼点

中山間地域の人口及び世帯数の推移

1．調査内容

庄内南部地区の市町村のうち、過疎地域の指定を受けている朝日村、温海町、及び辺地指定を受けている櫛引町の宝谷、たらのき代地区、羽黒町の川代地区、振興山村地域の指定を受けている鶴岡市の田川地区をそれぞれ小学校区毎に色分けし、昭和45年と平成12年の世帯数の対比を行った。

2．調査結果

全地域において世帯数の減少傾向が見られた。その中で特に朝日村朝日大泉小学校区、櫛引町宝谷、たらのき代地区、温海町福栄小学校区では減少率が顕著であった。

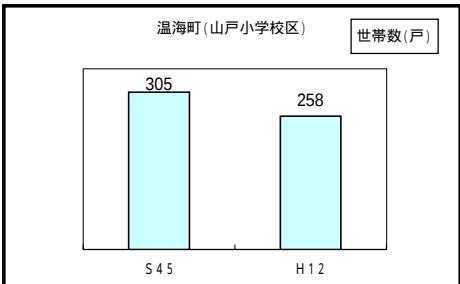
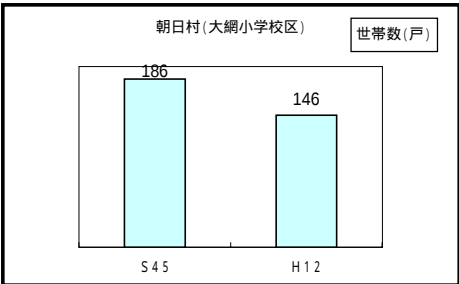
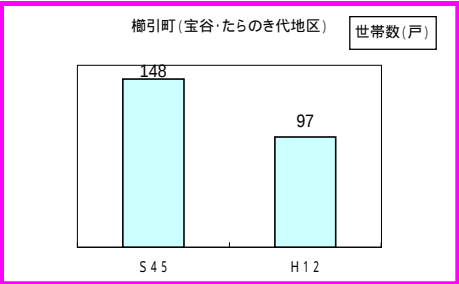
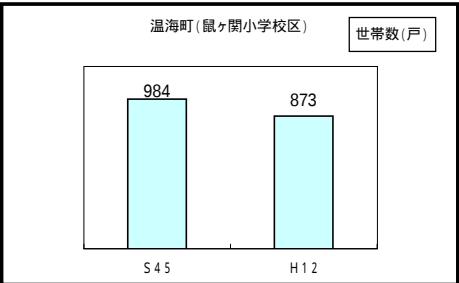
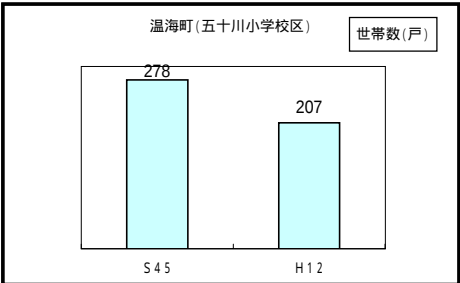
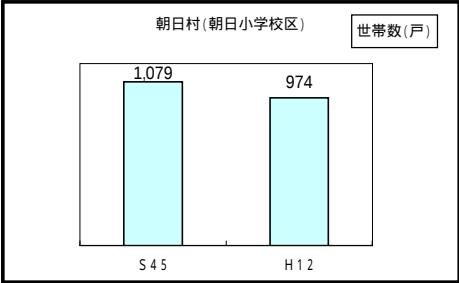
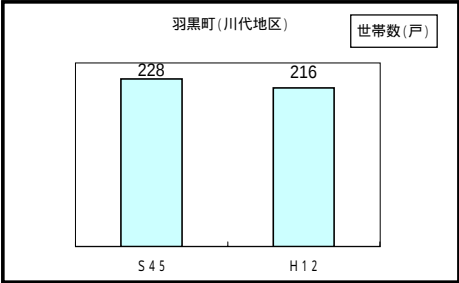
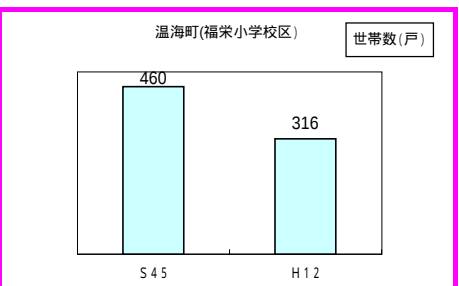
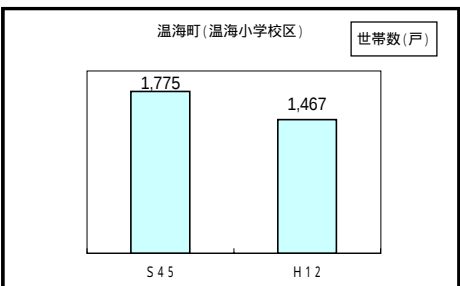
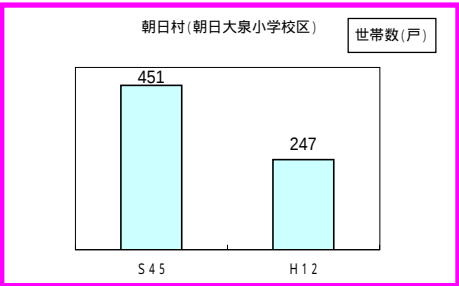
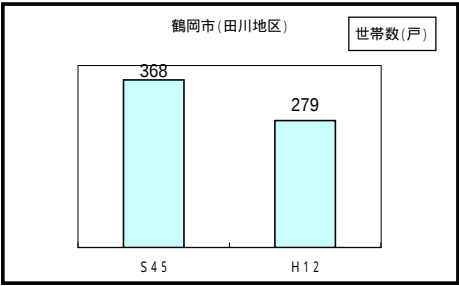
別添グラフ参照

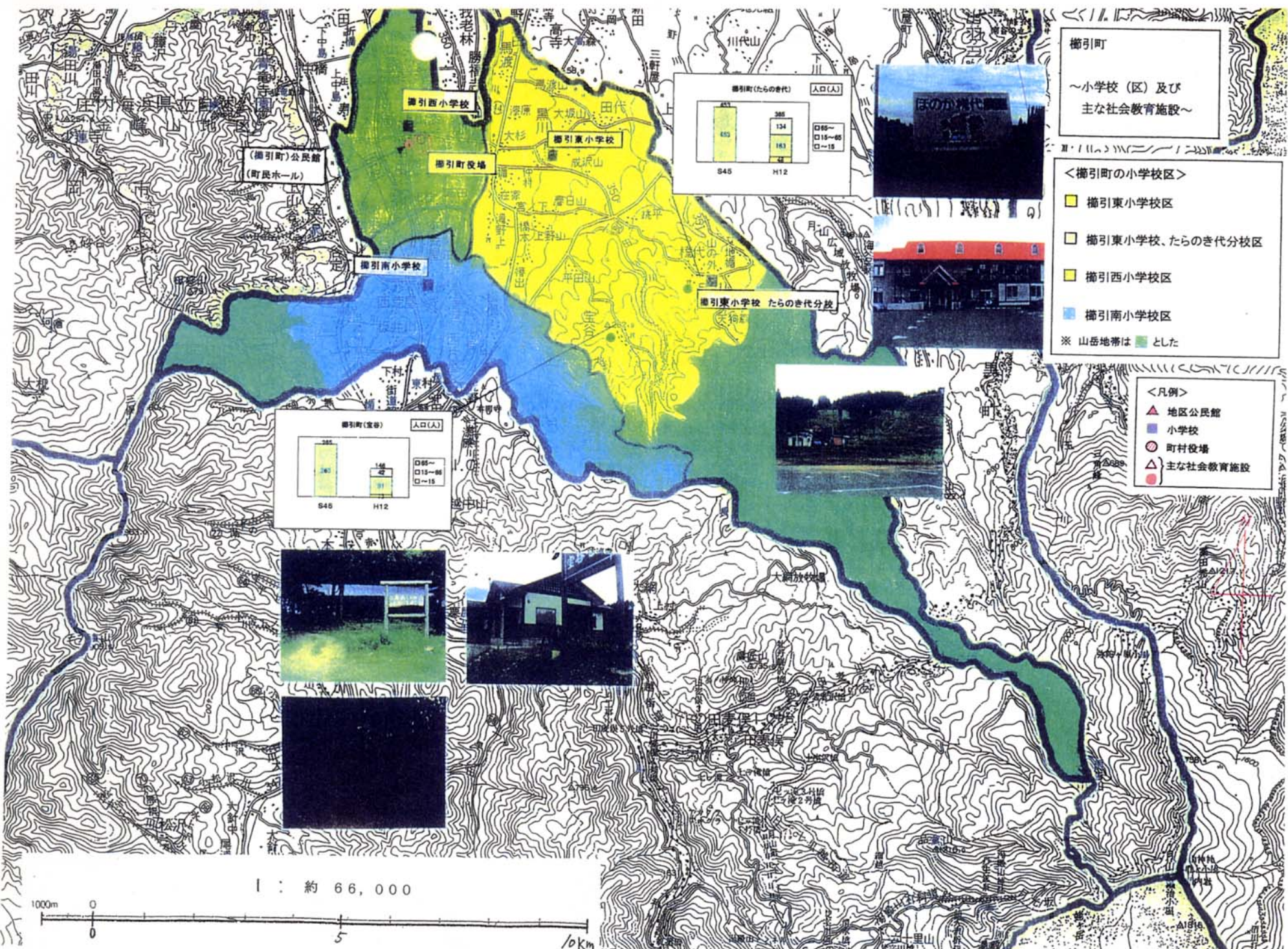
そこで、減少率の顕著な地区を集落毎に細分し、各集落の昭和45年と平成12年の人口、各年齢層の構成を対比したグラフで示した。

別添図参照

どの集落でも人口は著しく減少しており、朝日村では大鳥(19%)、荒沢・鱒淵(54%)、上田沢(59%)、田麦俣(58%)、櫛引町では宝谷(55%)、温海町では菅野代(40%)、温海川(47%)の減少が目立つ。これらの集落では65歳以上の高齢者の割合も高くなっており、高齢化率が50%を超える集落も見られる(大鳥)。

反対に、温海町の関川集落では、地理的にも不利な場所でありながら人口の減少が穏やかである(81%)。





櫛引町
～小学校（区）及び
主な社会教育施設～

<櫛引町の小学校区>
■ 櫛引東小学校区
□ 櫛引東小学校、たらのき代分校
■ 櫛引西小学校区
■ 櫛引南小学校区
※ 山岳地帯は ■ とした

<凡例>
▲ 地区公民館
■ 小学校
● 町村役場
△ 主な社会教育施設

